

原爆体験記

—ヒロシマ原点の記録— その2

期間 平成29年1月1日(日)～12月29日(金)

時間 12月～2月 8:30～17:00 / 3月～11月 8:30～18:00 8月～19:00(5日、6日～20:00)

会場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー(地下1階)

入場無料

被爆から五年後の一九五〇年

広島市は、核兵器のない

平和な世界を築こうと

初めて市民から原爆体験記を募集し

多数の応募がありました

まとめられた「原爆体験記」は

国の内外に広く配布し

原爆の悲惨さを訴えるはずでした

日本はまだ占領下であり

朝鮮戦争の勃発による東西冷戦の激化を受け

八月六日の平和祭はGHQの指示で

直前に中止となり

「原爆体験記」も広く配布されず

倉庫に眠ったままとなりました

被爆わずか五年後に書かれた

ヒロシマ原点の記録

生々しい記憶を基に記された体験記から

戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えます



「原爆体験記」昭和25年(1950年)
広島平和協会



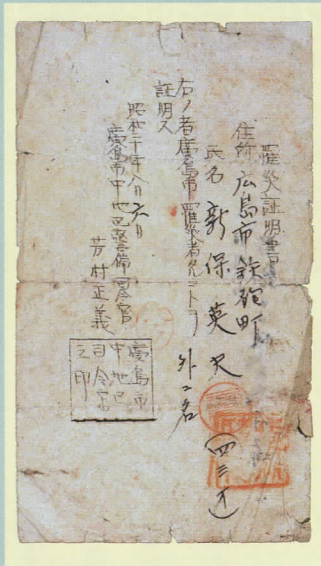
広島市が募集した原爆体験記の原稿
所蔵：広島市公文書館

新保英夫さんの被爆体験記より

(被爆時43歳 自営業)

トオトオ爆弾を投下された、と思ひ乍ら平素から訓練した通り、指先で目鼻耳をおさえて地面に伏せて居た。背中へ石コロや木切等が降ってくる。一寸頭を上げて見る。黒煙の中に居る様で真暗だ。実に静かな一時であった。

又頭を上げて見た。地面から三尺位が見え出した。俺は電車線路迄六米程吹飛ばされてみた。身体を働かして見る。何処も怪我は無い様だ。急に子供の泣き声をする。ソーダ俺の子、比佐子も側で遊んで居たのだ。夢中で声の方えかけ出した。子供も俺の前を通った。すぐ横抱きにする。顔は埃だらけで口と鼻から出血して居る。うす暗い中を我が家の方へ歩いた。

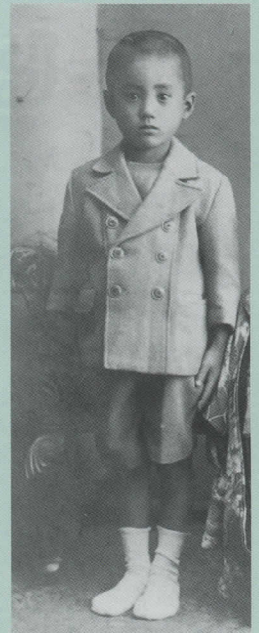


罹災証明書
寄贈:新保英夫氏
所蔵:広島平和記念資料館

前田正弘さんの被爆体験記より

(被爆時7歳 三篠国民学校2年生)

僕はやけどをして頭が大きくはれていたの、お兄さんは僕とは気がつかなく、僕が「お兄ちゃん」と呼んでも「正弘か」と問いかえされた。その時、僕はうれしくてうれしくてたまらなかった。(中略)お兄さんは近くの川に行ってハンケチをぬらして僕の頭を冷してくれ、また背負ってもらって、安の学校に行くと、そこにはやけどやけがをした沢山の人々がおられ、「水をくれ、水をくれー。お父さん。お母さん。」などと無意識に叫んでいる人や、「うーむうーむ」とうなっている人もいた。僕も兄さんに出合わなかったらあんなに知っているかと思うと、ああ僕は運がよかったんだ。神か仏が僕を兄さんに引き合わせて下さったのだらうと思った。



5歳の時の前田正弘さん
提供:前田正弘氏

北山二葉さんの被爆体験記より

(被爆時33歳 主婦)

傷らしい傷もなかった夫は帰って三日目の十三日の朝血を吐きながら、明日をも知れぬ妻と三人の愛し児を残して淋みしく死んで行った。ああ思えば十六年連添った夫婦でありながら妻に死水もとって貫へづ逝った夫、仕事のために生れて来た程仕事のすきだったのにこれから多くのなすべき事を残して逝った夫の気持ちを考へるとたまらない気がする。

私の枕元に「お母ちゃん」と云って坐った坊やの声、あの時の血の出るやうな悲しさは今思ひ出しても涙があふれて来る。

「ああ哀れな子たち。私は死んではならない、この子たちを孤児にする事が出来るものか」私は一心に夫の霊に祈った。何度も何度も絶望を宣告されながら私は不思議に一命をとり止める事が出来た。



北山二葉さんの家族写真(右から2人目)
提供:黒河直子氏

※上記3編の体験記は昭和25年(1950年)に書かれたものです。かなづかいやおくりがな等、現在の用法と異なる場合がありますが、原則、原文のまま掲載しています。

開館時間 12月~2月 8:30~17:00
3月~11月 8:30~18:00
(8月~19:00 5日・6日~20:00)

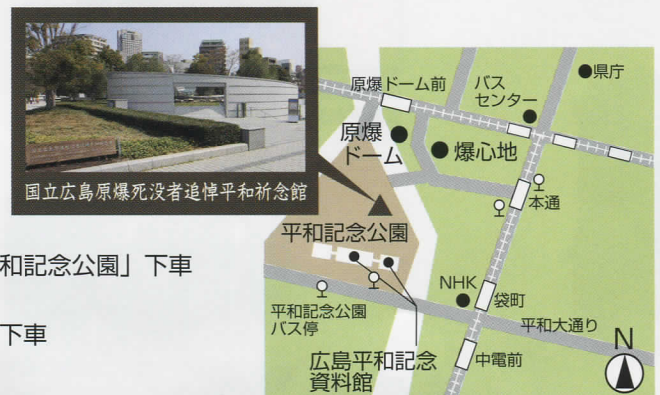
休館日 12月30日、31日

入館料 無料

交通案内 JR広島駅(南口)から約20分

- ・バス/広島バス吉島方面行で「本通り」または「平和記念公園」下車
- ・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口・西広島・江波行で「原爆ドーム前」下車

駐車場はありません



お問い合わせ先

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL 082-543-6271 FAX 082-543-6273
ホームページ <http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者のお名前・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、特定のテーマから被爆の実相に迫ります。被爆体験記や原爆死没者のお名前・遺影をお寄せください。皆さまのご協力をお願いいたします。